

バリアフリー観光推進事業費

| | |
|-----|-----------|
| 部局名 | 観光文化スポーツ部 |
|-----|-----------|

| | | | | | | | | |
|------------------------|---|---|--------|--------------|----------------|-----------------------|--------|--------|
| 短期アクションプラン | テーマ | テーマ5 世界に誇る山形の魅力を発信し国内外の旺盛な活力を引き込む「観光立県山形」の確立 | | | | | | |
| | 施策 | 施策1 全ての人が快適に旅行できる環境の整備 | | | | | | |
| | 目的 | 外国人や高齢者などの全ての旅行者が「旅の喜び」を実感できるよう、多様な旅行者のニーズをとらえた受入態勢の整備や交通環境の利便性向上を図る。 | | | | | | |
| | 目標指標(H32) | 観光満足度(NPS) | 26.7 | | | | | |
| | 策定時の実績 | 17.0(平成27年度) | 現状 | 17.0(平成27年度) | 主要事業 | (1)多様なニーズをとらえた受入態勢の整備 | | |
| 事業名 | バリアフリー観光推進事業費 | | | 担当課・担当 | 観光立県推進課 観光振興担当 | | | |
| 事業開始年度 | 平成29年度 | | | 事業終了(予定)年度 | 平成31年度 | | | |
| 事業の目的 | 人口減少や超高齢社会の進展により年間を通じた観光者数の減少が懸念される中、今後増加が見込まれる障がい者や高齢者等の新たな旅行者を確保するため、県民総参加・全産業参加により、宿泊施設や観光施設のバリアフリー化や情報発信等に取り組み、高齢者や障がい者等の誰もが快適に観光を楽しめるバリアフリー観光を推進し、「観光立県山形」の確立を図る。 | | | | | | | |
| 事業概要 | <p>1バリアフリー宿泊施設収益アップモデル事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー改修や障がい者等受入のための従業員研修、接客マニュアル作成を行い、収益アップを図る宿泊施設をモデル的に支援【補助率1/2 補助上限550万円(ハード事業500万円、ソフト事業50万円)】 <p>2 観光公衆施設の整備支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光地に設置されている市町村等の公衆トイレの改築・修繕を支援【補助率1/3 補助上限200万円】 <p>3 宿泊施設等のバリアフリー化状況調査事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光視点によるバリア及びバリアフリー化等の状況調査の実施・情報発信の充実 ・経営者や従業員の意識向上のためのシンポジウムの開催 | | | | | | | |
| 実施方法 | <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由:委託については民間企業のノウハウを活用し効果的な事業を展開するため。 補助については観光事業者等の経済活動を側面から支援するため。 | | | | | | | |
| 予算額・決算額 (単位:千円) | 費目(予算見積書のグループ名) | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度 | | |
| | バリアフリー宿泊施設収益アップモデル事業 | | 10,972 | 20,342 | | | | |
| | 観光公衆施設整備支援事業 | 7,200 | 7,275 | | | | | |
| | 旅館等バリアフリー化状況調査事業 | | 6,395 | | | | | |
| | 計 | 7,200 | 24,642 | 20,342 | 0 | 0 | | |
| 財源内訳 (単位:千円) | 国庫支出金 | | | | | | | |
| | 繰入金 | | | | | | | |
| | その他特定財源 | | | | | | | |
| | 一般財源 | 7,200 | 24,642 | 20,342 | | | | |
| | 計 | 7,200 | 24,642 | 20,342 | 0 | 0 | | |
| 活動指標及び活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度 | |
| | 宿泊施設・観光公衆施設のバリアフリー整備への支援件数(単年度) | 活動実績 | 件 | 7 | 10 | | | |
| | | 当初見込み | 件 | 10 | 14 | 4 | 4 | |
| 成果指標及び成果実績 (アウトカム) | 成果指標(所管部局の分析) | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度 | |
| | 県外からの観光者数(単年度) | 成果実績 | 千人 | 19,716 | | | | |
| | | 目標値 | 千人 | 19,500 | 19,800 | 20,200 | 20,600 | 21,000 |
| | | 達成度 | % | 101 | | | | |
| 関連事業 | 該当なし | | | | | | | |

事業目標の考え方(事業目標設定時)

2020年の東京オリンピック・パラリンピックや、超高齢社会の進展等を背景に、障害の有無や年齢、国籍に関わらず、誰もが快適に旅行することができる「バリアフリー観光」の必要性・重要性は年々高まっている。
 本事業は、多様なニーズをとらえ、観光関連施設の利便性・快適性の向上を図り、誰もが安心して快適に周遊できる受入態勢の整備を目的とすることから、実際にお越しいただいたお客様の観光満足度を目標として設定する(具体的な数値は「おもてなし山形県観光計画」を参考に設定)。

事業所管部局による評価・検証 (平成29年度)

| | 項目 | 評価 | 評価に関する説明 |
|---------------------------------|--|----|---|
| 事業目標の妥当性・達成度 | 事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。 | A | バリアフリー観光の推進は、今後一層重要になっていく取組みであり、全県的に実施すべき事業である。補助事業については、県内全域で活用され、観光・宿泊施設のバリアフリー化に資するものとなった。 |
| | 明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。 | A | |
| | 目標水準は妥当か。 | A | |
| | 期待する成果が得られたか。 | A | |
| | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | A | |
| 事業内容の妥当性 | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | C | 補助事業については、適切に対象事業の選定、事業実施後の確認等を行った。同様に、委託事業についても適切に受託者を選定し、密に連携を取りながら、事業を実施した。活動実績については、当初の見込みの7割ほどに留まったが、想定よりも大規模な改修が多かったことが主な原因であり、事業としてはバリアフリー観光の推進に十分資するものであった。 |
| | 支出先の選定は妥当か。 | A | |
| | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | A | |
| | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | A | |
| | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | A | |
| 類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。 | — | | |
| の役割 妥当 分担 | 市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。 | A | |
| 今 改 善 の 課 題 ・ | 健康福祉部とも連携を図りながら、今後ともバリアフリー観光の推進に取り組んでいく。 | | |

- ・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。
- A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。
- B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。
- C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。
- : 該当しない